

安全衛生だより第1号	
平成30年1月10日発行	

環境安全部

1. 2月全国行事

1) 省エネルギー月間

2月1日～28日

2. 安全・衛生・防災の心得 : 寒冷時期の安全衛生管理・活動 「寒さで心身ともに縮み込まないで」

3. システム監査 良い事例(抜粋)

4. 事故・災害事例から : 出口の水たまりが凍結して転倒災害

5. ヒヤリハット事例 水蒸気による火傷の可能性

2. 安全・衛生・防災の心得 : 寒冷時期の安全衛生管理・活動 「寒さで心身ともに縮み込まないで」

寒冷で陰鬱な環境は、ほかの季節にはない安全衛生上の問題がたくさんあります。この時期事故や災害は夏期に次いで多く、また、心身の健康状態も不調になりがちです。この時期を安全で健康に過ごすために、次の事柄に気をつけ、実行しましょう。

- ①心身ともに縮み込んでヒューマンエラーを起こしやすい。指差し呼称等はガッチリと。
- ②ポケットに手を入れたり猫背の姿勢は不安全。姿勢を正し、さっそうと行動しよう。
- ③凍結や積雪場所のスリップ対策や転倒防止対策は早めに実施。高所は特に注意を。
- ④機械や設備の冷却装置、蒸気や空気等のドレンポットの凍結。緊急用の消火用水や緊急洗眼・洗身器等の凍結に注意。
- ⑤この時期に多い静電気事故の対策を適切に。
- ⑥暖房機器等からの火災予防と一酸化炭素ガス中毒の予防・防止を。
- ⑦クルマでの移動、通勤等は時間にゆとりを持って。スリップ等に注意して慎重に運転を。
- ⑧閉め切った室内での作業や有害物取扱い作業では適切に換気や排気を。
- ⑨寒冷の環境で行う振動作業はからだの保温を心掛け、防振手袋等の着用を忘れずに。
- ⑩風邪の予防を心掛け、また、高血圧や心臓に異常のある人は自己管理をしっかりと。
- ⑪「冬期うつ症」に罹らないよう生活のリズムを正して、心身のリフレッシュを図る、など。

3. システム監査 良い事例(抜粋)

①平塚第一工場

階段の注意喚起表示



②愛知工場

固体潤滑塗料の空容器乾燥治具



4.事故・災害事例から： 出口の水たまりが凍結して転倒災害

- 他社事例
- (1)災害のあらまし
- 冬期・寒波が襲来した朝、作業員（男性23歳、勤続5年）が、自職場の屋内作業場から別棟の作業場へ業務の連絡に行くため走って屋外に飛び出した際、たまたま出口付近の水たまりが凍結しており、その氷で足を滑らせて転倒し、左手首を骨折しました。
- (2)災害の主な原因
- 1)工場出口の床の凹凸に水たまりができて凍結していたこと。
 - 2)被災者が足元を確認しないで、走って通ろうとしたこと。
 - 3)被災者の靴の底が擦り減っていて滑りやすかったこと、など。
- (3)同種災害の防止対策例
- 1)作業場の出入口等の床は水たまりや凍結が生じないように補修する。
 - 2)通路等の降雪や氷結箇所は、除雪や除雪剤を散布したり、氷を取り除いたり標識を設置するなど、転倒防止措置を行う。
 - 3)降雪、凍結が予測される場合は、あらかじめ事業場（職場）の出入口に転倒防止用マットを敷き、また照明設備を設け夜間照度を確保する。
 - 4)滑りにくい「耐滑性」の靴でも滑ることがあるので、慎重な行動や歩行を心掛ける。降雪や氷結道路等での走行は厳禁とする、など。
- (4)環境安全部から
- これからの時期、当事業場でもこのような事故の発生が考えられます。とくに東北、甲信越、北関東地区などの凍結や降雪が多い事業場ではなお一層の注意が必要です。あらためて冬期特有の現象（水たまりの凍結等）を想定したリスクアセスメントを行ったり、週間天気予報から寒波襲来の前に朝礼やTBMで注意喚起を行ったりすることなども有効な手段です。たかが雪や凍結などと軽視せず、危険性を理解し、事業場全体で事故防止に取り組みましょう。

5. ヒヤリハット事例： 水蒸気による火傷の可能性

事例	水蒸気による火傷の可能性
どこで	タンク付帯設備で
あらまし	前日、別の人間が設置した蒸気配管を上水道と勘違いしてバルブを開いたところ水蒸気が噴出した
原因	引継ぎ連絡不足、確認不足、配管表示の不備
教訓・対策	新設配管は必ず内容物を表示し、関係者への伝達を確実にすること